



2025年3月期（2024年4月～2025年3月） 決算説明資料



株式会社MCJ

2025年5月14日

2025年3月期における主なトピックス

業績サマリー

□ 通期業績は売上高及び各利益共に過去最高を達成

- 期初想定通り3年ぶりの前年同期比増収増益を達成
- 利益を伴う売上拡大により、粗利率も過去最高水準が継続
- 国内PC事業が全体の業績を牽引。総合エンターテインメント事業の好調と合わせて期初想定通り減益の海外PC事業を補い過去最高益を達成

主要KPI

□ 中期経営計画(2023-2025)にて掲げた全KPI目標を達成

- 中計にて設定した5つの最重要KPIについては、すべての項目で目標を達成
- 引き続き高い収益性と資本効率を両立
 - 営業利益率 9.4% (目標値：7%以上)
 - ROIC 23.3% (目標値：15%程度以上)
 - ROE 16.7% (目標値：15%程度以上)
 - 配当性向* 30.1% (目標値：30%以上)
 - 総還元性向* 35.7% (目標値：30%～40%程度)
 - DOE 5.0% (目標値：4.5%程度)

その他 トピックス

□ 2028年3月期までを対象とする新たな中期経営計画を発表

- 最終年度である2028年3月期にて売上高約2,370億円、営業利益約210億円を目指す (詳細は2025年5月14日公表の中期経営計画資料を参照)

□ コーポレートサイトを更新。サステナビリティセクション新設や英語版コンテンツも拡充

※ 2025年3月期の配当性向、総還元性向については、2025年6月に開催予定の定時株主総会において承認されることを前提として記載

1. 2025年3月期通期連結業績報告 3 – 25

2. ESGに係る取り組みについて 27 – 30

3. 前中期経営計画進捗及び新計画概要 32 – 38

4. 2026年3月期通期連結業績予想 40 – 45

連結業績サマリー (1/2)

2025年
3月期
実績通期
累計期間□ 増収増益にて売上高及び各利益が過去最高を達成

- 売上高： 2,071億円 （前年同期比 10.5%増）
- 営業利益： 193億円 （同 12.7%増）
 - 売上高は初の2,000億円超えを達成
 - 高水準の利益率が継続し、前年同期比増益を達成すると共に、経常利益は初の200億円超えを達成

1月～3月
会計期間□ 第4四半期として売上高及び営業利益が過去最高を達成

- 売上高： 596億円 （前年同期比 13.1%増）
- 営業利益： 47億円 （同 15.6%増）
 - 四半期での前年同期比増収率が今期最大となる
 - 4Qは全ての主要子会社が前年同期比増収を達成
 - マウス、ユニットコムの業績拡大が継続し、全体を牽引

連結業績サマリー (2/2)

4Qでは**全主要子会社が前年同期比増収**を達成
通期、4Q双方において**過去最高の売上高及び営業利益**となる

(百万円)	会計期間 (1月～3月)			累計期間 (4月～3月)		
	2024年3月期 第4四半期	2025年3月期 第4四半期	増減率	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	52,715	59,614	13.1%	187,455	207,171	10.5%
営業利益	4,111	4,753	15.6%	17,192	19,378	12.7%
経常利益	3,837	5,136	33.8%	17,087	20,018	17.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,566	3,445	34.3%	12,199	14,052	15.2%

- 1Qから4Qまでの**全ての四半期において前年同期比増収**を達成
- 4Qとしては過去最高の営業利益を計上。**営業利益率は8%と4Qとして過去最高水準**を達成
- 以上の結果、通期及び4Q双方共に過去最高の業績を更新

【参考資料】 一時的な要因を除いた 連結業績サマリー

1Qに計上の一時収益を除く**実質ベースでも**
売上高及び各利益共に過去最高を更新

(百万円)	会計期間（1月～3月）			累計期間（4月～3月）		
	2024年3月期 第4四半期	2025年3月期 第4四半期	増減率	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	52,715	59,614	13.1%	187,455	205,466	9.6%
営業利益	4,111	4,753	15.6%	17,192	18,697	8.8%
経常利益	3,837	5,136	33.8%	17,087	19,338	13.2%

- 1Qに保有資産売却収益を計上。上記は当該影響を除く実質ベースでの参考数値となる
- 当該**実質ベースでも、通期業績は売上高及び各利益共に過去最高**となり、規模拡大及び収益性の向上が継続

2025年3月期 連結損益計算書

売上高は過去最高を更新し、初の2,000億円超えとなる
各利益も前年同期比で増益となり、過去最高を更新

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	187,455	100.0%	207,171	100.0%	19,715	10.5%
売上原価	140,915	75.2%	155,495	75.1%	14,580	10.3%
売上総利益	46,540	24.8%	51,675	24.9%	5,135	11.0%
販売費及び一般管理費	29,347	15.7%	32,297	15.6%	2,949	10.0%
営業利益	17,192	9.2%	19,378	9.4%	2,185	12.7%
経常利益	17,087	9.1%	20,018	9.7%	2,931	17.2%
税金等調整前 四半期純利益	17,105	9.1%	19,687	9.5%	2,581	15.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,199	6.5%	14,052	6.8%	1,852	15.2%

マウスが全体を牽引。初の売上高2,000億円超えを達成

高水準の利益率が継続。売上総利益率も過去最高となる

人件費や広告宣伝費及び変動費用の増加などにより前期比増額するも、対売上高比率は想定の内となる

各利益は過去最高を更新

【参考資料】 一時的な要因を除いた 連結損益計算書（通期）

1Qに計上の一時収益を除く**実質ベース**でも
高水準の利益率を伴う増収増益を達成し、**売上高及び各利益共に過去最高を達成**

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比	
	通期		通期			
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	187,455	100.0%	205,466	100.0%	18,011	9.6%
売上原価	140,915	75.2%	154,471	75.2%	13,556	9.6%
売上総利益	46,540	24.8%	50,994	24.8%	4,454	9.6%
販売及び一般管理費	29,347	15.7%	32,297	15.7%	2,949	10.0%
営業利益	17,192	9.2%	18,697	9.1%	1,505	8.8%

マウスの好調を受け、
実質ベースでも増収
し、過去最高を達成

売上総利益は過去
最高となり、利益率
も過去最高水準が
継続

人件費や広告宣伝
費等の戦略費用増に
加え、売上増に伴う
変動費用が増加する
も、対売上高比率は
前年同等を維持

実質ベースでも営業
利益として初の180
億円超えとなり、過
去最高の営業利益
を達成

2025年3月期 連結業績推移グラフ（会計期間）

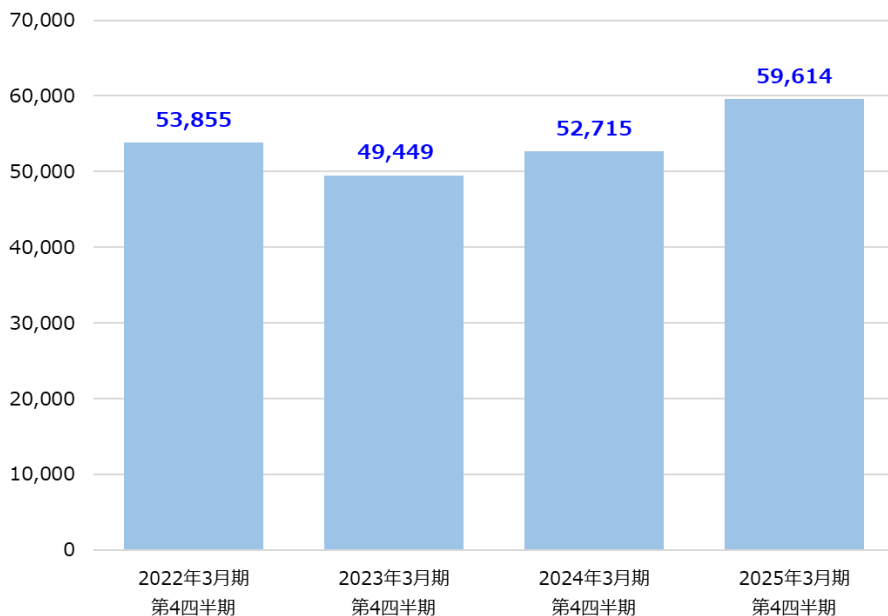
4Qでは前年同期比での増収率が更に加速。4Q過去最高の売上高となる
営業利益も4Qとして初の47億円を達成

マウスの増収基調が継続し
4Qにおいても高い増収率が継続
売上高は4Qとしては過去最高となる

4Qでの増益トレンドは継続。
4Qとして過去最高の営業利益を達成すると共に
高水準の営業利益率を達成

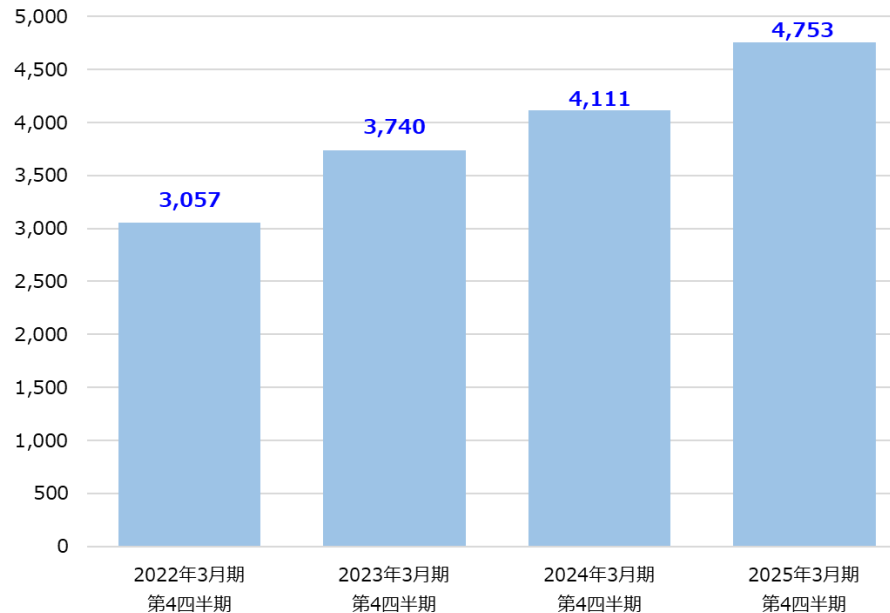
（単位：百万円）

売上高推移



（単位：百万円）

営業利益推移



2025年3月期 連結業績推移グラフ（通期）

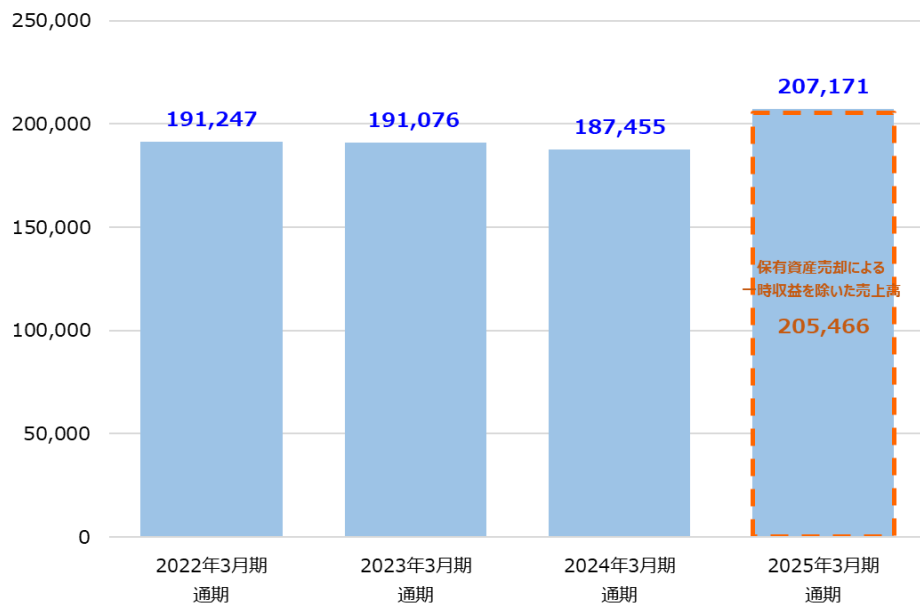
売上高及び営業利益共に過去最高を更新
国内PC事業が全体の業績を牽引

国内PC事業中心に増収し、売上高は初の
2,000億円超えを達成

国内PC事業が業績を牽引し、営業利益は初の190億
円超えを達成。実質ベースでも過去最高益となる

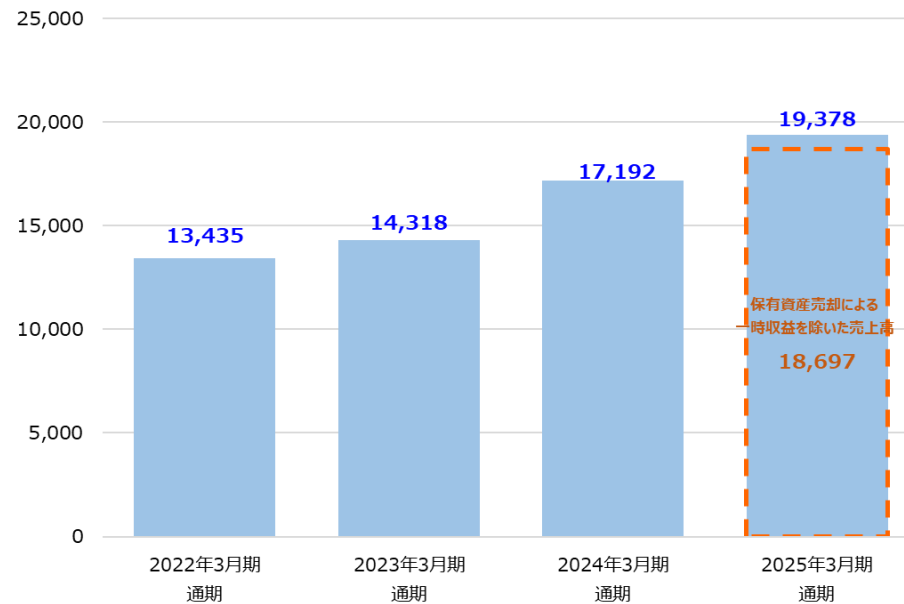
(単位：百万円)

売上高推移



(単位：百万円)

営業利益推移



2025年3月期 通期連結業績予想に対する達成率

期初想定通りに増収増益にて着地

期初における通期連結業績予想値に対し、**売上高及び各利益共に上回る**結果となる

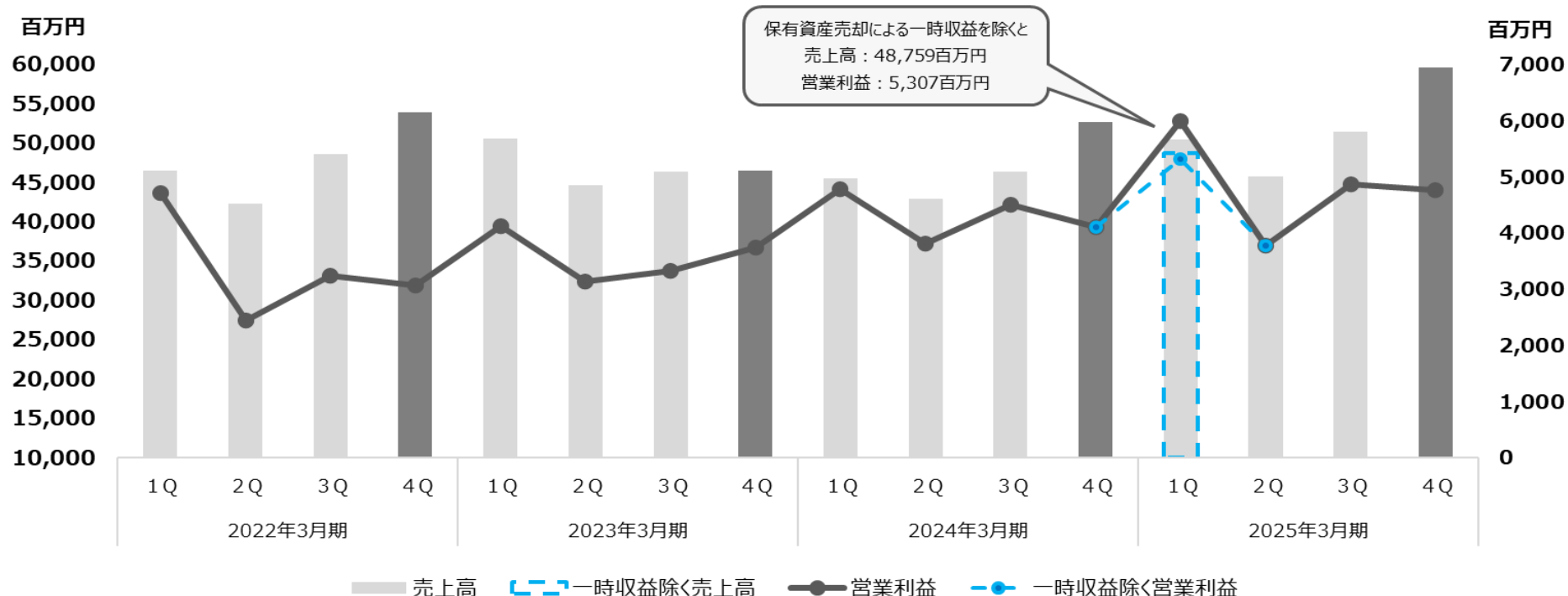
売上、利益共に期初予想を上回る。
利益率は期初想定以上を達成

(百万円)	通期連結業績予想に対する達成率			
	2025年3月期 通期	2025年3月期 通期業績予想	達成率	(参考)2024年3月期 通期実績
売上高	207,171	196,600	105.4%	187,455
営業利益	19,378	18,300	105.9%	17,192
経常利益	20,018	18,000	111.2%	17,087
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,052	12,700	110.6%	12,199

前年同期比でも増収増益を達成

2025年3月期 連結業績推移

4Qにおける増収増益基調が継続
4Qでは前年同期比増収となり、**590億円を超える過去最高の売上高**を計上
利益面でも**営業利益が47億円超えとなり、4Qとしての過去最高**を更新
季節要因で販管費が膨らむ傾向にある**4Qにおいて、異例ともいえる営業利益率8%**を達成



(百万円)	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	46,473	42,290	48,627	53,855	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299	52,715	50,464	45,714	51,378	59,614
営業利益	4,702	2,445	3,230	3,057	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498	4,111	5,987	3,776	4,860	4,753

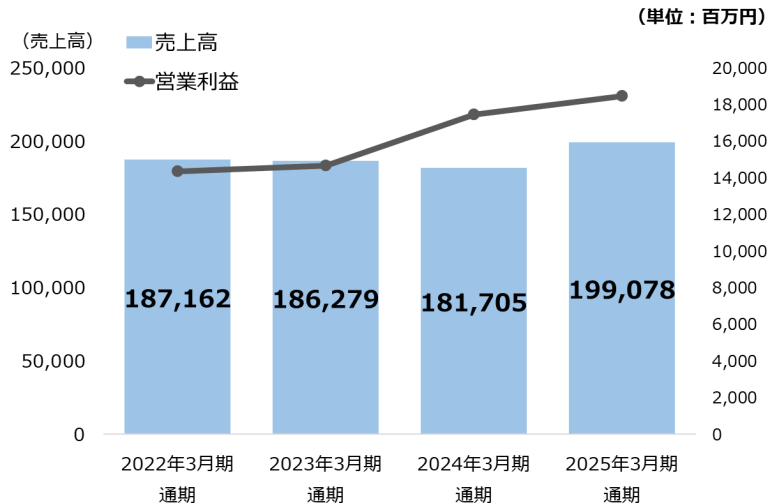
セグメント情報 2025年3月期 実績

パソコン関連事業

- 売上高 1,990億円（前年同期比 9.6%増）
- 国内事業はマウスが前年同期比大幅な増収となり前年同期比増収
 - 海外事業2社も前年同期比増収を達成（iiyama, R-Logic）
- 営業利益 184億円（同 5.7%増）
- 国内事業はマウス、ユニットコム的好調により前年同期比大幅増益
 - 海外事業はiiyamaが期初想定通り減益も、R-Logicは増益となる

mouse UNITCOM TEKWIND

iiyama RLOGIC



パソコン関連事業 (百万円)	2024年3月期 通期		2025年3月期 通期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売 上 高	181,705	96.9%	199,078	96.9%	17,373	9.6%
営 業 利 益	17,456	101.5%	18,449	98.7%	993	5.7%

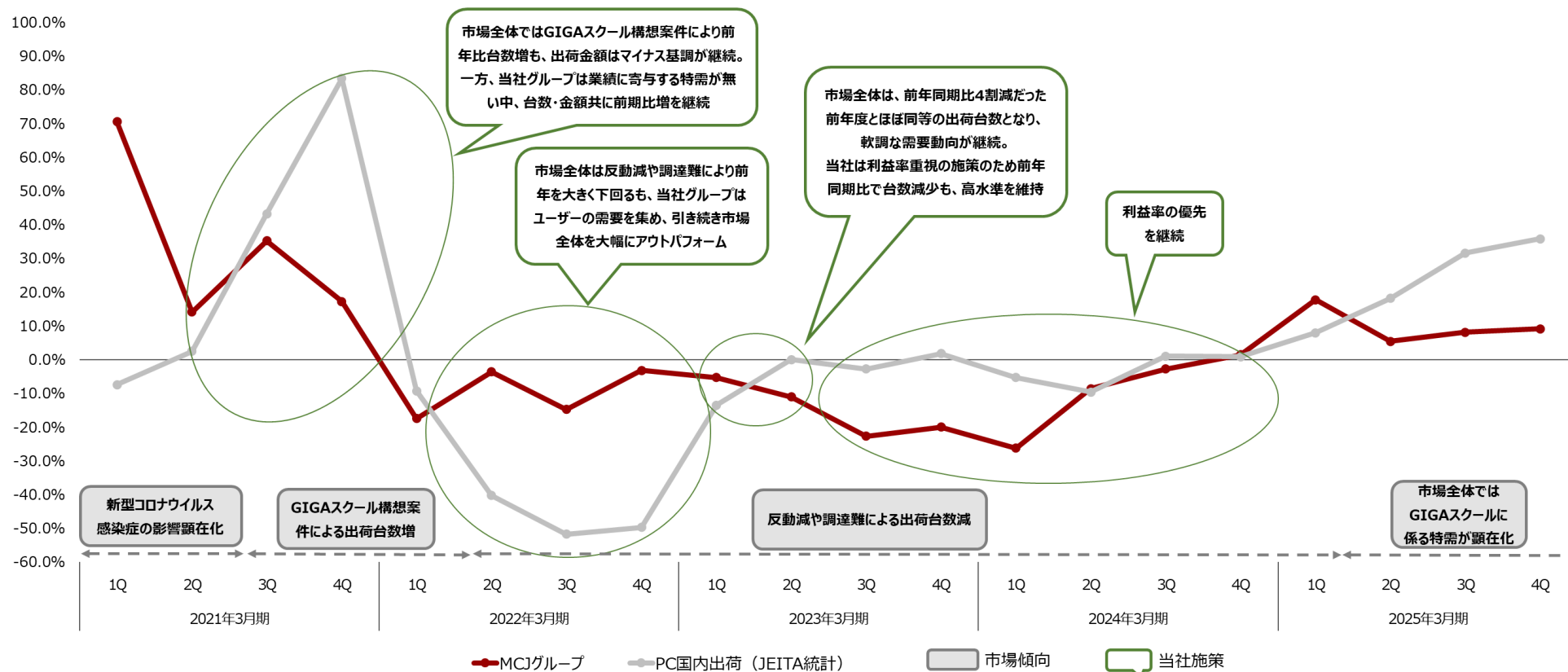
※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

※ 上記は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となります。

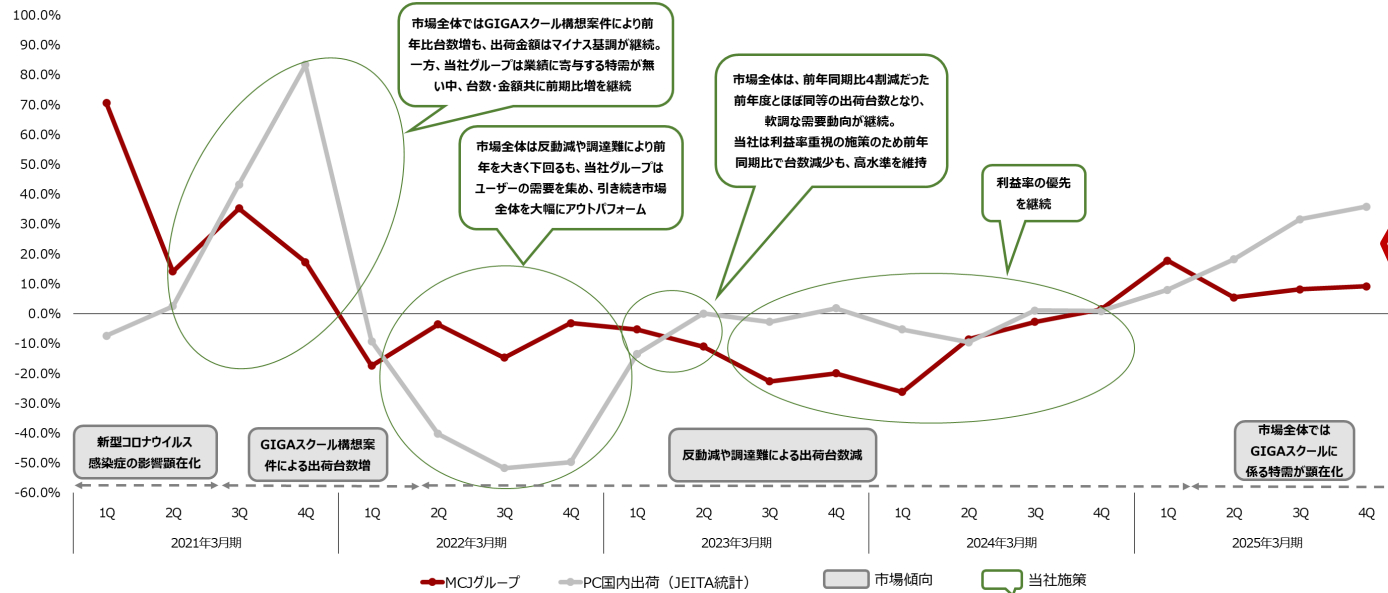
国内パソコン出荷台数増減率の推移（1/2）

国内PC市場全体はGIGAスクールに係る出荷が全体を牽引し、好調を維持
当社グループはGIGAスクールへの積極関与せずとも前年同四半期比での出荷台数増が継続

- ※ 下記グラフは対前年同四半期での出荷台数の増減（例えば今期4Qと前期4Qとの比較）を示すものであり、経年での出荷台数又はその増減の推移を表すものではありません。
- ※ 当社グループの数値はマウスとユニットコムの出荷台数合算でグループ全体の平均的なトレンドを表しており、個別の会社の実際の出荷台数増減トレンドや強弱とは異なる可能性があります。



国内パソコン出荷台数増減率の推移（2/2）



GIGAスクール特需の影響が最小限の当社グループは、2023年3月期からは利益重視施策により政策的に出荷台数を抑制するも、2021年3月期以降の台数減は市場対比でマイルドであり、前年同四半期比でのハードルが市場より高いものの、当期は一貫して前年同四半期での台数増が継続

なお、今期においては、前期上半期より構造改革に伴い拠点数や販路を削減したユニットコムが、1Q2Qともに前年同四半期比では台数減も、3Qより微増に転換

マウスは一貫してハイスペックPCや法人需要により出荷台数大幅増が継続。下記参考のモバイル以外の市場の伸びを上回り推移

国内PC市場はコロナ特需やGIGAスクール需要等により2021年3月期が直近のピーク。特需後以降はマイナスが続き2024年3月期までの3年間で市場規模が約半減

当期2025年3月期からは以下の要因によりユーザー需要が回復。期初想定通り下半期以降、前年同四半期比での台数増がより加速

1. サイクル的な買い替え需要（1Qより顕在化）
2. Windows10サポート終了に伴う買い替え需要
3. GIGAスクール更新需要（上記2と共に2Q後半より顕在化）

【参考】

市場全体の年間前年同期比：124.3%

- ・うちモバイルノート(GIGA含む)：152.0%
- ・うち通常ノートPC：103.7%
- ・うちデスクトップPC：112.2%

主要子会社トピックス 【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

2025年3月期 実績

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	53,460	64,996	21.6%
営業利益	3,427	4,436	29.4%
経常利益	2,973	4,353	46.4%
当期純利益	1,972	2,957	49.9%

- 前年同期比で**台数及び単価共に増加**し、前年同期比20%を超える増収を達成
- 自社ECを中心とする直販チャネルで販売が好調に推移
- ハイスペックPC、法人向けPC中心に堅調な販売が継続
- 利益面でも、先行投資により前年同期比減益であった上半期を吸収し、売上高以上の増益率を達成
- 以上の結果、**通期売上高は初の600億円超えを達成**するなど堅調に推移し、前年同期比**増収増益**にて着地

主要子会社トピックス 【マウスコンピューター】 参考) 上下半期比較

上半期下半期共に増収基調は継続
下半期にかけて更なる施策強化により、利益面でも大きく伸張

2025年3月期 実績

【上半期、下半期業績比較】

(百万円)	2025年3月期 上半期	2025年3月期 下半期	増減率
売上高	29,356	35,640	21.4%
営業利益	1,622	2,813	73.4%
経常利益	1,895	2,458	29.8%
当期純利益	1,227	1,729	40.8%

下半期にかけて売上高が更に拡大すると共に、**利益率も大きく上昇**

【営業利益率】

上半期：5.5%

下半期：7.9%

【上半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 上半期	2025年3月期 上半期	増減率
売上高	23,146	29,356	26.8%
営業利益	1,859	1,622	△12.8%
経常利益	1,497	1,895	26.6%
当期純利益	973	1,227	26.2%

期初想定通り売上高は前年同期比増収で着地。
一方で市場動向を鑑みた広告宣伝費などの**先行投資負担**あり上半期は減益

【下半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 下半期	2025年3月期 下半期	増減率
売上高	30,313	35,640	17.6%
営業利益	1,567	2,813	79.5%
経常利益	1,476	2,458	66.5%
当期純利益	999	1,729	73.0%

下期も売上高の増収基調は継続。更なる利益コントロール及び上半期実施の**先行投資回収**を進め、**利益率も上昇**。大幅増益を達成

【営業利益率】

前期：5.2%

今期：7.9%

主要子会社トピックス 【ユニットコム】

UNITCOM

オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

2025年3月期 実績

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売 上 高	42,312	42,280	△0.1%
営 業 利 益	552	1,584	187.0%
経 常 利 益	521	1,547	196.4%

※保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

※税金への影響が現段階で未確定のため、経常利益までの表示としております。

- ❑ 前年度実施の構造改革の影響により、上半期の減収分を吸収できず、通期でも減収となる
- ❑ 一方で、構造改革の影響により、利益面では好調に推移。上半期での営業黒字転換に加え、下半期では更に利益水準が向上
- ❑ 製品利益コントロールの強化及び収益の多角化などにより利益率も下半期にかけて更に上昇
- ❑ 以上の結果、売上高は前年同期比減収も、利益面では大幅な増益となり着地

主要子会社トピックス【ユニットコム】 参考) 上下半期比較

構造改革の影響による売上面へのインパクトが無くなった下半期では増収へ転換
利益面では下半期にかけ増益幅が更に伸張。年間では大幅な増益を達成

2025年3月期 実績

【上半期、下半期業績比較】

(百万円)	2025年3月期 上半期	2025年3月期 下半期	増減率
売 上 高	17,718	24,562	38.6%
営 業 利 益	347	1,237	256.6%
経 常 利 益	295	1,251	323.7%

下半期にかけて売上高増が加速。
結果、利益面でも大きく伸張

【営業利益率】

上半期：2.0%

下半期：5.0%

【上半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 上半期	2025年3月期 上半期	増減率
売 上 高	20,535	17,718	△13.7%
営 業 利 益	△ 79	347	△534.5%
経 常 利 益	△ 104	295	△381.6%

前期実施の構造改革の影響により、販売チャネル減などから減収も、収益構造は良化し、利益面では黒字転換を果たす

【下半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 下半期	2025年3月期 下半期	増減率
売 上 高	21,777	24,562	12.8%
営 業 利 益	631	1,237	95.8%
経 常 利 益	626	1,251	99.7%

構造改革の影響に加え増収効果もあり、**下半期では大幅な営業増益**を達成。利益率も上昇

【営業利益率】

前期：2.9%

今期：5.0%

※保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

※税金への影響が現段階で未確定のため、経常利益までの表示としております。

主要子会社トピックス 【テックウインド】



PC及びPC周辺機器パーツの卸売・販売

2025年3月期 実績

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	35,164	31,718	△9.8%
営業利益	650	243	△62.6%
経常利益	618	300	△51.4%
当期純利益	407	198	△51.2%

- 期初想定通りの減収減益にて着地
- 歴史的な円安トレンドの影響が継続
- 一方で、**下半期にかけては業績が安定化**
- 引き続き新たな商材発掘や事業立ち上げを通じ、**利益率を重視**した運営を行い、安定成長を目指す

《新規ソリューション分野の強化事例》

AI顔認証オールインワンパッケージ
TEKIPAKI® Vaidio®

ソフト・ハード・導入支援まですべてを含んだ手軽なAIソリューション

AI顔認証ソフトウェア GPU搭載サーバー カメラ ネットワークスイッチ

多様なセキュリティニーズに対応するAIの導入を迅速かつワンストップでサポート

AI顔認証オールインワンパッケージ
「TEKIPAKI® Vaidio®」

法人向け
AI搭載ビデオ会議
ソリューション

法人向けAI搭載ビデオ会議
ソリューション

AI目線検知で広告効果を高める、革新的AIサインージュソリューション
TEKIPAKI EYE

1. 視線を検知 2. 興味・関心をとらえ、情報を表示

りんご人気ランキング

AIサインージュソリューション
「TEKIPAKI EYE」

主要子会社トピックス【テックウインド】 参考) 上下半期比較

上半期までの苦戦を経て、下半期には前年同期比増収増益となるなど業績が安定化

2025年3月期 実績

【上半期、下半期業績比較】

(百万円)	2025年3月期 上半期	2025年3月期 下半期	増減率
売上高	13,514	18,204	34.7%
営業利益	52	190	263.3%
経常利益	69	231	235.4%
当期純利益	56	141	148.9%

前期及び上半期の進捗をうけて、販売
チャネル面、製品面などで様々な対応策
を実施。結果、下半期にかけて売上高、
利益共に増加

【上半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 上半期	2025年3月期 上半期	増減率
売上高	18,169	13,514	△25.6%
営業利益	448	52	△88.3%
経常利益	523	69	△86.8%
当期純利益	356	56	△84.0%

期初想定通り、卸事業に
係る円安の影響が大きく
前期に引き続き減収減益
トレンドが継続

【下半期 前期比】

(百万円)	2024年3月期 下半期	2025年3月期 下半期	増減率
売上高	16,995	18,204	7.1%
営業利益	202	190	△5.8%
経常利益	95	231	142.5%
当期純利益	50	141	182.3%

下半期に向けて、利益率
の面で取り扱い製品や提
供サービスの見直しを進め
ると共に、販売チャネル改
革も実施し、業績の安定
化を果たす

主要子会社トピックス 【iiyama】



モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

2025年3月期 通期(2024年1月～2024年12月)実績*

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	55,962	61,293	9.5%
営業利益	12,217	11,468	△6.1%
経常利益	12,892	12,431	△3.6%
当期純利益	9,592	9,266	△3.4%

- 欧州の低調な景況感の改善が進まない中、上半期に続き下半期でも前年同期比増収継続
- 市場全体が軟調に推移する中、産業用モニタを中心に好調な販売を記録。**現地通貨ベースでも前年同期比通期増収**を達成
- 一方で、利益面では通常期よりも高マージンであった前期及び上半期を経て、**下半期では利益水準が正常化**。結果、通期としては**期初想定通りの減益**にて着地

※ 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年12月の業績を連結上組み込んでおります。

主要子会社トピックス【iiyama】

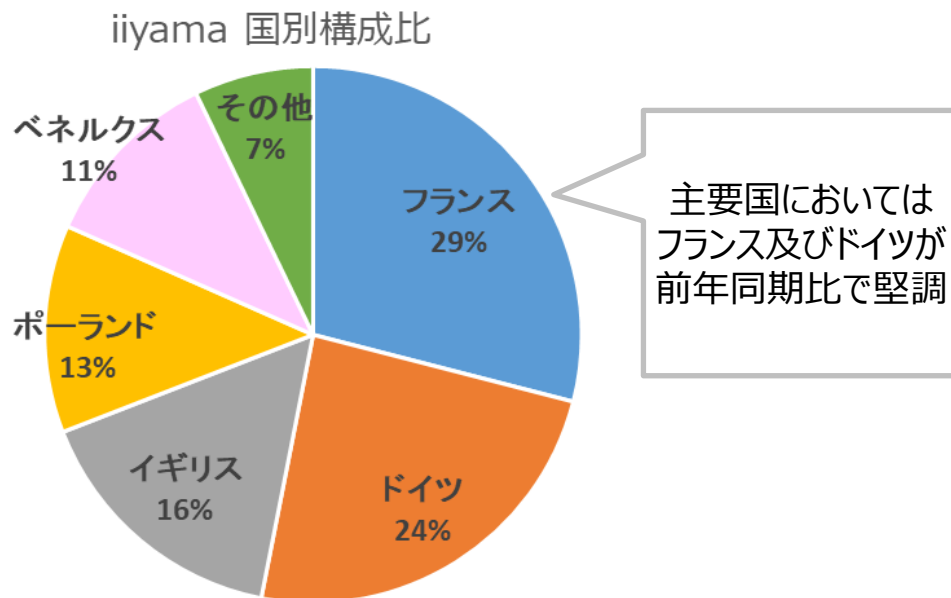


モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

2025年3月期 通期(2024年1月～2024年12月)実績*1

事業展開国別の構成比*2

既存展開国における営業強化に加え、今後展開エリアを順次拡大予定



主要製品（例）

産業用ディスプレイが堅調で売上増を牽引

《産業用タッチモニタ、LFD、例》



販売台数においても前年同期比増が継続



※1 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年12月の業績を連結上組み込んでおります。

※2 出荷台数ベースにて集計しております。また、ベネルクスには、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクを内包しております。

主要子会社トピックス 【R-Logic】



アジア地域におけるPC及びIT機器の修理・サポート

2025年3月期 通期(2024年1月～2024年12月)実績*

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減率
売上高	4,217	4,752	12.7%
営業利益	365	376	3.1%
経常利益	434	525	20.9%
当期純利益	297	404	35.8%

- 引き続き経済成長の著しい**インド事業が業績好調**を牽引。前年同期比での増収基調が継続
- 将来成長を見据えた**新規事業に係る立ち上げ費用の発生**に加え、既存事業でも東南アジア諸国におけるビジネス環境などを踏まえた**国をまたぐ合理化施策を実施**するなど、**引き続き先行投資を継続も増益を確保**
- 以上の結果、**売上高及び営業利益を含む各利益ともに当社買収以降での最高の業績**を達成

※ 外国法人としてのR-Logicは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年12月の業績を連結上組み込んでおります。

セグメント情報 2025年3月期 実績

総合エンターテインメント事業：株式会社aprecio、株式会社MID

【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

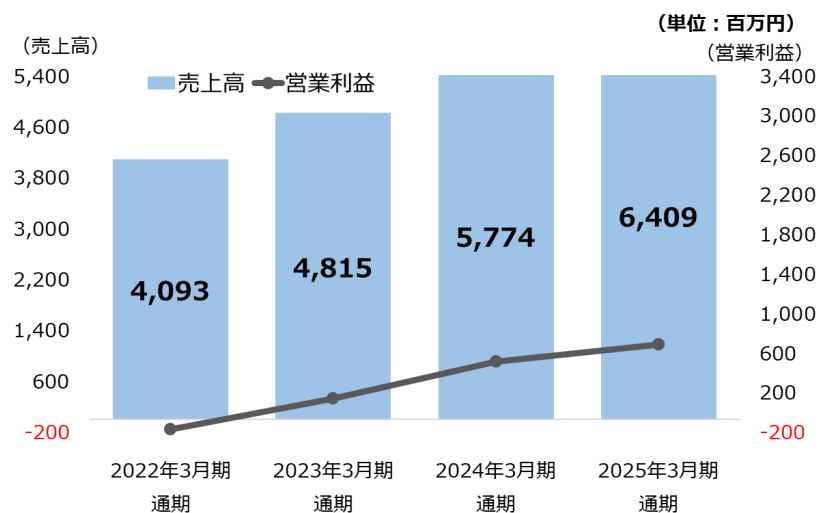


売上高 64億円（前年同期比 11.0%増）

- ネットカフェ事業の業績が順調に回復。増収基調が継続
- 24時間フィットネス事業も引き続き堅調に推移し、全体の増収を牽引
- 売上高は60億円を超え、セグメントとして過去最高の売上高を計上

営業利益 6.8億円（同 33.5%増）

- ネットカフェ事業が堅調を維持する中、フィットネス事業が大幅に増益し、全体の増益を牽引
- 営業利益も初の6億円超えとなり、セグメント営業利益は過去最高を更新



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2024年3月期 通期		2025年3月期 通期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	5,774	3.1%	6,409	3.1%	635	11.0%
営業利益	511	3.0%	683	3.5%	171	33.5%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

バランスシートの状況

B/S数値及び主要関連実績推移

	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期実績	2025年3月期実績
現金及び預金	24,565百万円	41,143百万円	48,552百万円	57,725百万円
有利子負債	12,715百万円	10,088百万円	15,431百万円	13,801百万円
ネットデット (△キャッシュ)	△11,849百万円	△31,055百万円	△33,091百万円	△43,924百万円
棚卸資産	36,405百万円	26,061百万円	30,665百万円	35,432百万円
自己資本比率	61.3%	65.8%	65.6%	66.6%
ROIC	19.0%	18.8%	22.6%	23.3%
ROE	16.9%	15.3%	16.7%	16.7%

2025年3月期期末におけるB/Sの状況概略

強固な財務基盤

売上の好調や一部の調達環境を鑑みて棚卸資産を政策的に積み増すも、将来の投資拡大などを見据えキャッシュ残高は高水準を維持
自己資本比率も高水準を維持。引き続き強固な財務基盤を有する

高い資本効率

高い自己資本比率にもかかわらず高収益と高い資産効率を維持。ROEはKPIを超える高水準を維持すると共に、中計初年度比でも上昇。ROICも同様にKPI及び前年同期を超える高水準を達成
持株会社として資本効率を意識した事業運営・事業ポートフォリオ管理を引き続き継続

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 2025年3月期通期連結業績報告 | 3 – 25 |
| 2. ESGに係る取り組みについて | 27 – 30 |
| 3. 前中期経営計画進捗及び新計画概要 | 32 – 38 |
| 4. 2026年3月期通期連結業績予想 | 40 – 45 |

MCJグループのESGの考え方

MCJグループのESGの取り組み全体像

目指す企業の姿

21世紀を代表する製品
サービスを創り、人々の生活
を豊かにし、よりよい社会の構築に貢献する会社になる

大切にしている価値観

- » Get The Ideal ～お客様の理想を形に～
- » 社会との共生
- » 正しく真つすぐな道を歩む
- » あくなきチャレンジ精神

経営ビジョン

ESG大方針

- 当社グループはその事業活動を通じて、企業価値の向上のみならず、社会的価値の向上も図るものとする
- 誠実かつ公正な事業活動を通じて、社会益の向上及び社会の持続可能な発展に貢献する

重点的に取り組む課題

E

Environment

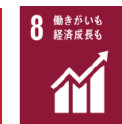
製造に関わる企業として資源循環、エネルギー問題等への積極的な貢献を果たす



S

Social

人と人の生活基盤である会社・社会をより良い場所にするべく貢献を果たす



G

Governance

持続的な企業価値及び社会価値の向上の為の基盤と位置づける



重点的に取り組む課題

Environment



製造に関わる企業としての地球環境への責任

- ・ 事業活動における環境負担の低減
- ・ 環境負担の低い製品開発
- ・ 消費エネルギー抑制による環境負担の低減
- ・ 資源環境の推進
- ・ 資源利用効率の向上による資源消費の抑制
- ・ ...

Social



人的資本及び生活基盤たる地域・社会への貢献

- ・ 社内外の研修等を通じた人材開発及び育成の強化
- ・ 採用や制度による多様化への取り組み
- ・ 働きやすい環境創り
- ・ 取引先を巻き込んだ責任ある調達体制の構築
- ・ 地域社会との共生及び貢献
- ・ ...

Governance



攻めと守り、双方のガバナンス体制構築による基盤強化

- ・ 成長戦略の明示化及び推進体制・監督体制の強化
- ・ 公正な業務慣行の推進
- ・ リスクマネジメント
- ・ 情報セキュリティ対策
- ・ ステークホルダーとの対話及び関係の強化
- ・ ...

事業活動を通じて企業価値及び社会的価値双方の向上を追及する

2025年3月期ESG活動の一例

全体方針に基づき今期も様々な活動を実施

寄付活動

【製品寄付】

- 鹿児島県の沖永良部島（和泊町）における公営塾「ORINACE ACADEMYへの製品提供」（認定特定非営利活動法人Teach For Japan様との取り組み）
- 北海道木古内町の中学生・小学生向けパソコン組み立て教室への協賛
- 長野県飯山市の高校生・小学生の親子を対象としたプログラミング教室へのパソコン提供
- 他実績多数

【金銭寄付】

- 特定非営利活動法人フローレンス様
- 一般財団法人みらいこども財団様

災害支援

【今期の災害支援件数：6件】

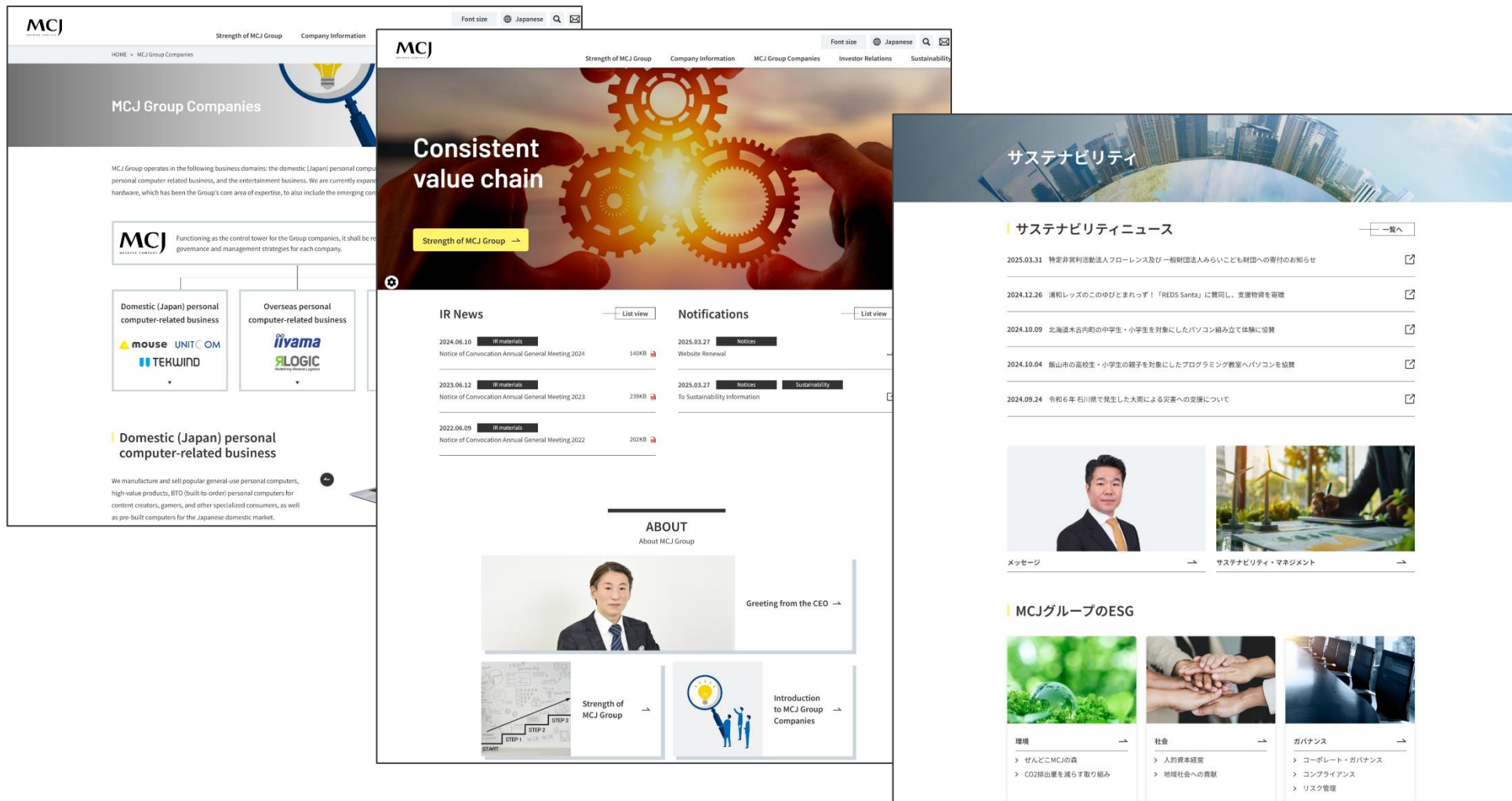
- 山形県の大雨に係る災害支援（5月）
- 宮崎県日向灘市地震に係る支援（8月）
- 令和6年台風10号に係る支援（9月）
- 石川県大雨に係る支援（9月）

□ 支援内容一例

- 修理診断費用無料
- 修理作業費用無料
- パソコン無償レンタル（1か月間）
- 買い替え時保証（故障でも1,000円での買取保証）等

コーポレートサイトを更新

サステナビリティセクションを新設。当社グループのESG活動を積極的に発信すると共に、英語版コンテンツも拡充



1. 2025年3月期通期連結業績報告 3 – 25
2. ESGに係る取り組みについて 27 – 30
- 3. 前中期経営計画進捗及び新計画概要 32 – 38**
4. 2026年3月期通期連結業績予想 40 – 45

中期経営計画進捗サマリー

		目標値	実績
2025年 3月期	営業利益率	7%以上	<u>9.4%</u>
	ROIC	15%程度以上	<u>23.3%</u>
	ROE	15%程度以上	<u>16.7%</u>
	配当性向	30%以上	<u>30.1%</u> ※
	DOE	4.5%程度	<u>5.0%</u>
	総還元性向	30%～40%程度	<u>35.7%</u> ※
	進捗	□ 厳しい事業環境下、全ての主要KPIを達成 □ 2025年3月期には自社株買いを実施 □ 引き続き高い収益性と資本効率を両立	

※ 配当性向及び総還元性向については、2025年6月に開催予定の定時株主総会において承認されることを前提として記載

前回中期経営計画及び進捗概要

前回中期経営計画概要

計画の背景

【2022年3月期の状況】

前年同期比営業減益となり 期初予想も未達

- 国内PC事業は軟調な市場動向や半導体不足をはじめとする原材料・部材調達問題に直面
- 海外PC事業はコロナによる影響を受けつつ事業展開
- 総合エンターテインメント事業はコロナ禍による需要減により営業赤字が継続

計画概要

2023.3～2025.3期間 の中計における 大方針（3つの柱）

- ✓ 既存事業収益性強化
- ✓ 将来成長の為の基盤整備
- ✓ M&A・アライアンスを活用した更なる成長

計画に対する進捗

《収益性強化》

- ➔ 大幅な円安伸長や経営コスト増により利益面では若干計画未達も、売上・利益共に過去最高を更新。大幅な増収増益を達成

2022年3月期

2025年3月期

売上高 1,912億円

2,071億円

営業利益 134億円

193億円

《基盤整備及びM&A等》

- ➔ 将来成長に向けた営業体制や拠点整備、注力分野への先行投資、基幹システム投資等は実行
- ➔ 一方で、東証プライム移行準備は想定以上の時間及びリソース投入となり、その結果M&A等の成長投資が実現せず

前回中期経営計画実績サマリー：P/L数値及びKPI指標推移

前回中計期間中におけるP/L数値及びKPI実績推移

	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期実績	2025年3月期実績
売上高	191,247百万円	191,076百万円	187,455百万円	207,171百万円
営業利益	13,435百万円	14,318百万円	17,192百万円	19,378百万円
営業利益率	7.0%	7.5%	9.2%	9.4%
ROIC	19.0%	18.8%	22.6%	23.3%
ROE	16.9%	15.3%	16.7%	16.7%

収益基盤強化

売上高成長率：8.3%、営業利益成長率：44.2%（対2022年3月期比2025年3月期実績）
中計3年間に於いて業績は順調に拡大。中計1、2年目は調達環境の急変などを受け、利益重視策に舵を切り減収の中における増益維持を優先するも、最終年度には増収増益を達成し、売上高・各利益共に過去最高を達成

資本効率強化

ROE、ROIC共に資本コストを上回る高水準を維持
ROEは中計初年度の15.3%から最終年度には16.7%と上昇。引き続き高い収益性や資本効率等を維持

株主還元強化

普通配当に係る累進配当継続：1株当たり配当金額※は中計前2022年3月期の32円から中計最終年度では43円へと増額
自社株買い実施：2025年2月及び5月に**自社株買い実施**をアナウンス（総額60億円）

※ 1株当たり配当金額については、2025年6月に開催予定の定時株主総会において承認されることを前提として記載

前回中期経営計画実績サマリー：P/L数値及びKPI指標対計画

項目及び 主要KPI	中計前実績及び当初計画		実績及び当初計画比	
	2022年3月期実績	2025年3月期計画	2025年3月期実績	計画対比
売上高	191,247百万円	216,200百万円	207,171百万円	95.8%
営業利益	13,435百万円	18,900百万円	19,378百万円	102.5%
営業利益率	7.0%	7.0%以上	9.4%	+ 2.4%
ROIC	19.0%	15%以上	23.3%	+ 8.3%
ROE	16.9%	15%以上	16.7%	+ 1.7%
配当性向	33.9%	30.0%以上	30.1%※	+ 0.1%
総還元性向	33.9%	30%～40%程度	35.7%※	+ 5.7%
DOE	5.7%	4.5%程度	5.0%※	+ 0.5%

前期中計における全数値計画項目及びKPI目標を達成

中期経営計画 全体像概略①

前中計における事業環境 及び着地の状況

事業環境

- 国内PC需要が直近ピークより半減する中、中計初年度期中に大幅な円安進行や人件費を含む経営コストの大幅増に直面
- コスト面の環境は不変も、中計最終年度にようやくユーザー需要の回復が始まる

着地の状況

- 中計2年目までは利益重視により減収増益。最終年度に増収増益し、売上高及び営業利益共に過去最高を更新
- 調達環境急変を受け、一時期は在庫投資を通常期+100～150億円積み増しも、正常化を受け現金化を加速。結果、手元キャッシュ大幅増

今回中計における取り組みテーマ

主要テーマ

既存事業

- 収益の安定化及び着実な成長

成長投資

- M&Aの再開による成長の加速

B/S活用

- WCP、成長投資、株主還元をバランス

取り組みの方向性概要

- 着実なオーガニック成長を図る

	2025年3月期	2028年3月期予想
売上高	2,071億円	2,369億円
営業利益	193億円	210億円

- コロナや調達環境等の急変を受け一時中断していたM&Aを積極化
- 主要ターゲットを中心にアクティブにアプローチ。中長期成長をより加速

- 増加するワーキングキャピタルニーズ、M&A含む成長投資に加え、株主還元を更に強化
- 上記バランスをとり、中長期視点でアロケーションを最適化

中期経営計画 全体像概略②



中期経営計画 長期ビジョンにおける今回の中計の位置づけ



- ✓ コロナ禍、調達環境の急変や円安急進等を受けディフェンシブな運営を実施
- ✓ 収益の安定化及びバランスシートの強化を加速

前期中期経営計画及び進捗概要

前期中期経営計画概要	
計画の背景	計画概要
【2022年3月期の状況】 前年同期比営業減益となり期初予想も未達 - 国内PC事業は軟弱な市場動向や半導体不足を始めたとする原材料・部材調達問題に直面 - 海外PC事業はコロナによる影響を受けつつ事業展開 - 総合エンターテインメント事業はコロナ禍による需要減により営業赤字が継続	2023.3～2025.3期間の中計における大方針（3つの柱） ✓ 既存事業収益性強化 ✓ 将来成長のための基盤整備 ✓ M&A・アライアンスを活用した更なる成長

Copyright(C) 2022 MCJ Co., Ltd. All rights reserved.

中期経営計画 全体像概略①

前中計における事業環境及び着地の状況	今回中計における取り組みテーマ	
事業環境 - 国内PC需要が直近1クより半減する中、中計初年度中期中に大幅な円安進行や人件費を含む経営コストの大幅増に直面 - コスト面の環境は不変も、中計最終年度よりユーザー需要の回復が始まる 着地の状況 - 中計2年目までは利益重視により減収増益、最終年度に増収増益し、売上高及び営業利益共に過去最高を更新 - 調達環境急変を受け、一時期は在庫投資を適期期・100～150億円積み増し、正常化受け現金化を加速。結果、手元キャッシュ大幅増	主要テーマ 既存事業 - 収益の安定化及び着実な成長 成長投資 - M&Aの再開による成長の加速 B/S活用 - WCP、成長投資、株主還元をバランス	取り組みの方向性概要 ● 着実なオーガニック成長を図る 2025年3月期 2028年3月期予想 売上高 2,371億円 2,371億円 営業利益 210億円 210億円 ● コロナや調達環境等の急変を受け一時中断していたM&Aを積極化 ● 主要ターゲットを中心にアクティブにアプローチ。中長期成長をより加速 ● 増加するワーキングキャピタルニーズ、M&A含む成長投資に加え、株主還元を更に強化 ● 上記バランスと中長期視点でアロケーションを最適化

Copyright(C) 2022 MCJ Co., Ltd. All rights reserved.

- ✓ 前中計までの実施を受けて、より積極的で前向きな投資 = 将来への種まき、を実施
- ✓ 「収益性×強固なB/S」をフルに活用

収益安定化、B/S強化フェーズ

前中計

長期ビジョンに向けた種まきフェーズ

本中計
+α

収益拡大フェーズ

長期

長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針		相乗効果
取捨製品（ハード）の拡充	コンテンツ・サービス分野への事業領域の拡大	
● 情報にアクセスする、発信する、共有する「手段」としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化 ■ 情報への接点としてのハードウェア需要は不変 ■ ハードウェアは成長産業	● ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して考えるのが自然 ■ ハードウェアとの相互依存がより進化 ■ ハードウェア以上の成長ポテンシャル	
設定の背景/考え方 □ PC、モニタへの注力は継続 ■ 日本・欧州における更なる成長を模索 □ コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア... ■ 成長市場へのアクセスを図る	方向性/目標 □ 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓 ■ 日本市場を中心としてスタート □ コンシューマー・法人向けサービス... ■ まずはスモールスタート	
目標達成手段 □ 自社グループによる開発 □ アライアンス戦略による拡大 ■ M&A、ベンチャー投資、事業提携...	目標達成手段 □ M&Aによる事業ドメインの拡大 □ アライアンスによるサービス多様化 ■ 当初はB投資 / 少額M&Aにて着手	

Copyright(C) 2022 MCJ Co., Ltd. All rights reserved.

- ✓ 長期ビジョンの実現に向けた体制の確立
- ✓ その先を見据えた将来像の策定に着手

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 2025年3月期通期連結業績報告 | 3 – 25 |
| 2. ESGに係る取り組みについて | 27 – 33 |
| 3. 前中期経営計画進捗及び新計画概要 | 32 – 38 |
| 4. 2026年3月期通期連結業績予想 | 40 – 45 |

2026年3月期 通期連結業績予想

人件費を中心とした費用増が継続する中
国内PC事業は堅調に推移する見込みの一方で、海外PC事業は慎重な予測
結果、売上高は増収も、各利益は減益予想

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	191,247	191,076	187,455	207,171	208,900
営業利益	13,435	14,318	17,192	19,378	17,400
経常利益	13,680	13,935	17,087	20,018	17,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,283	9,603	12,199	14,052	12,000

【一時収益除く】

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	191,247	191,076	187,455	205,466	208,900
営業利益	13,435	14,318	17,192	18,697	17,400
経常利益	13,680	13,935	17,087	19,338	17,400

通期連結業績予想に対する前提及び考え方

業績予想についての補足事項

業績予想策定に係る前提

■ 市場環境

- 国内においては引き続きWindows10サポート終了やサイクル的な買替え需要に加え、GIGAスクール更新需要あり、好調が継続の公算
- 欧州においてはマクロ的な事業環境不透明感が引き続き強く、モニタ市場全般も引き続き保守的な想定

■ その他

- 調達環境については2026年3月期も過度に期待せず、為替や一部部材調達環境に関して引き続き保守的な想定
- ベアアップ含む 人件費をはじめとした各種費用の増加を見込む

《2026年3月期連結業績予想策定の定性情報》

【パソコン事業】：国内PC事業が利益を牽引

- ✓ 国内事業においては引き続き市場全体で好調継続が見込まれる中、当社については成長市場への注力や顧客ベース拡大策の深堀により、前年同期比での増収増益を見込む
- ✓ 海外事業においては対ユーロでの円高や、不透明な経済動向などあるも売上高はほぼフラットを見込む。（現地通貨ベースでは増収）一方で、利益は前年上半期までのハードルの高さなどを踏まえ減益想定

【総合エンターテインメント事業】：事業成長を想定

- ✓ 各事業の好調継続により、増収増益を見込む

《数値に係る前提及び補足》

- ✓ 売上高は各事業共に増収を見込み、過去最高の更新を想定
- ✓ ただし、調達環境を保守的に見積もるほか（粗利率ほぼフラット）、ベースアップを含めた人件費増及び各種コスト増を各社共に見込む（販管費の大幅アップ）
- ✓ また、前期1Qに計上した一時収益（営業利益で約7億円相当）の剥落も考慮
- ✓ 以上の結果、前年同期比増収減益となり過去最高の売上高更新を想定する

2026年3月期 連結業績予想

増収基調は維持。利益面では海外事業減益想定及び一時収益の影響もあり減益想定

(百万円)	2026年3月期					
	第2四半期 累計期間計画	売上高比率	対前年同期 増減率	通期計画	売上高比率	対前年 増減率
売 上 高	99,000	100.0%	2.9%	208,900	100.0%	0.8%
営 業 利 益	8,400	8.5%	△14.0%	17,400	8.3%	△10.2%
経 常 利 益	8,400	8.5%	△17.8%	17,400	8.3%	△13.1%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	5,900	6.0%	△18.8%	12,000	5.7%	△14.6%

- 国内パソコン事業の増収増益が、グループ全体の業績を牽引する見通し
- 欧州事業については事業環境リスクに加え、前年上半期のハードルの高さもあり減益想定
- 全般的な原材料調達リスク、人件費を含むコスト増を慎重に反映

2026年3月期 連結業績予想（一時収益除く前年同期比）

(百万円)	2026年3月期					
	第2四半期 累計期間計画	売上高比率	対前年同期 増減率	通期予想	売上高比率	対前年 増減率
売 上 高	99,000	100.0%	4.8%	208,900	100.0%	1.7%
営 業 利 益	8,400	8.5%	△7.5%	17,400	8.3%	△6.9%
経 常 利 益	8,400	8.5%	△12.0%	17,400	8.3%	△10.0%

- 国内パソコン事業の増収増益が、グループ全体の業績を牽引する見通し
- 欧州事業については事業環境リスクに加え、前年上半期のハードルの高さもあり減益想定
- 全般的な原材料調達リスク、人件費を含むコスト増を慎重に反映

株主還元① 配当金について

2026年3月期の総還元性向は中計にて掲げる還元方針に則り、**1株当たり配当金額の増配**に加え、**自社株買いの実施**もあり、大幅な上昇を想定

実績						予想
						2026年3月期
年間1株当たり 配当金	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	
普通配当	31円00銭	32円00銭	33円00銭	37円00銭	43円00銭	44円00銭
記念配当				20円00銭		
配当性向	46.2%					36.0%
普通配当	30.5%	33.9%	33.9%	30.0%	30.1%	
記念配当				16.2%		
総還元性向	30.5%	33.9%	33.9%	46.2%	35.7%	79.5%

□ 2026年3月期期末1株当たり配当金の予想額は44円00銭と想定

≫ 前期比増配の継続を優先：記念配当を除く普通配当では**13期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

引き続き2025年3月期も株主優待制度を実施予定

①1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択+②

＜商品一例＞

ゲーミングデバイスセット／21.5型液晶ディスプレイ
パソコン工房1万円商品券／米沢牛すきやき肉
うなぎ蒲焼／アイスセット／日本酒セット 等



②100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)



Appendix

商号 : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)

設立 : 1998年8月

代表者 : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康

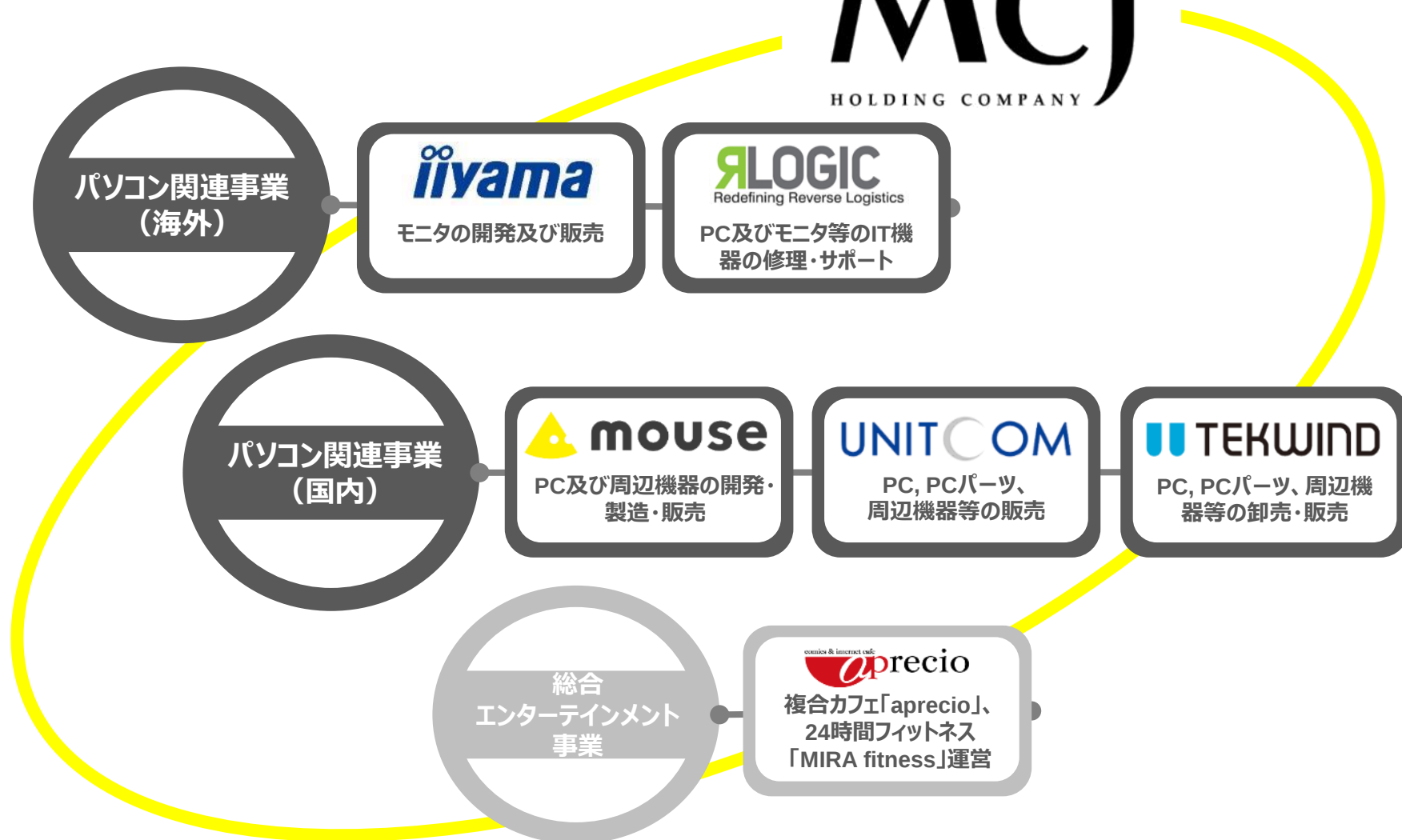
資本金 : 3,868,102,900円

従業員数 (連結) : 3,949人 ※うち臨時職員1,698人 (2025年3月末)

発行済株式数 : 101,774,700株 (同上)

証券コード : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）

の拡充

コンテンツ・サービス分野

への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B 投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI

重要視するKPI	実績数値及び目標数値			
	2023年3月期実績	2025年3月期実績	今回中期経営計画期間における目標	
営業利益率 <営業利益/売上高>	7.5%	9.1%* ¹	→ 7%以上	連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	18.8%	23.3%	→ 15%程度以上	資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均自己資本>	15.3%	16.7%	→	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	33.7%	30.1%* ²	→ 30%以上	下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	5.2%	5.0%	→ 4.5%程度	成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <(配当金総額+自己株式取得額)/当期純利益>	33.7%	35.7%* ²	→ 30～50%中心 80%上限目安	増配基調の維持を優先。想定ROE、株価水準等により自社株買いを実施

※1 2025年3月期の営業利益率は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

※2 配当性向及び総還元性向については、2025年6月に開催予定の定時株主総会において承認されることを前提として記載。

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp
HP : www.mcj.jp

MCJ
HOLDING COMPANY